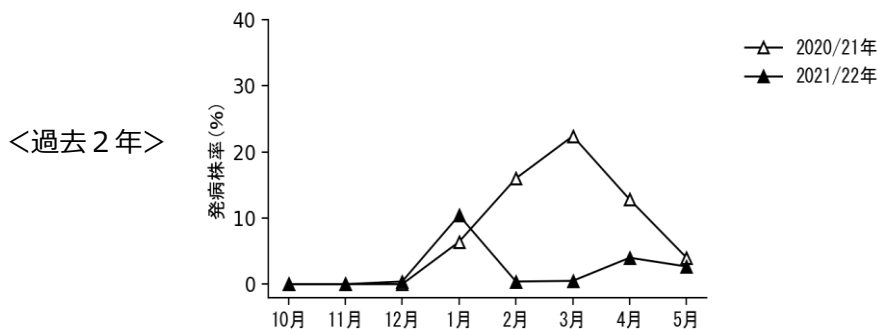
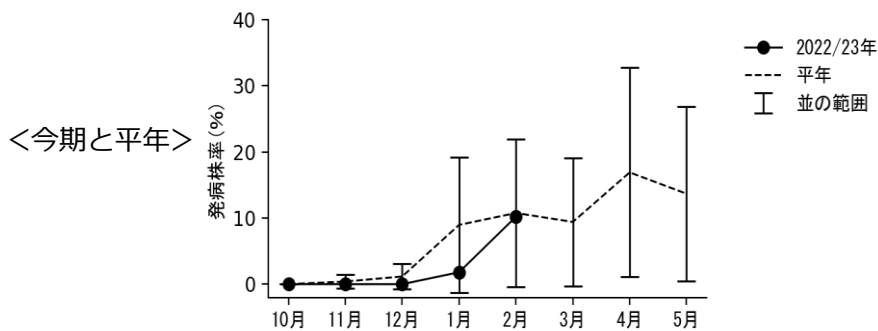


作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率80.0% (平年 : 38.2%)

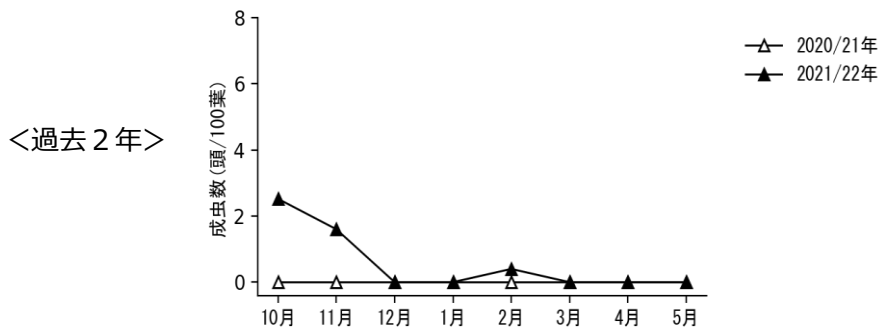
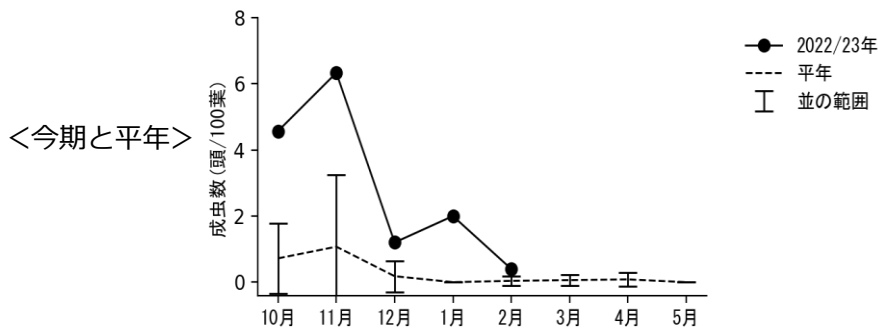
防除のポイント

- ・病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率20.0% (平年：2.0%)

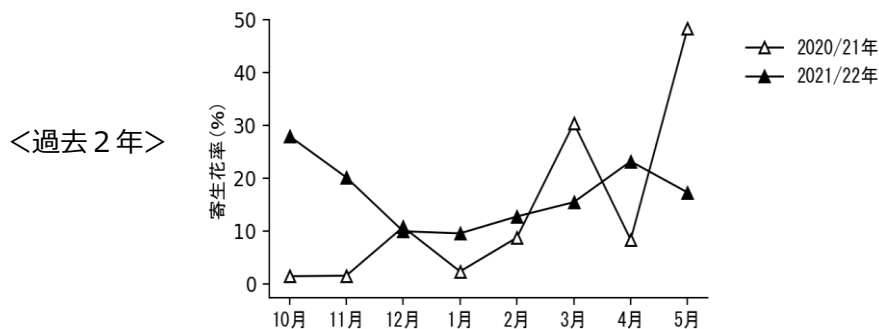
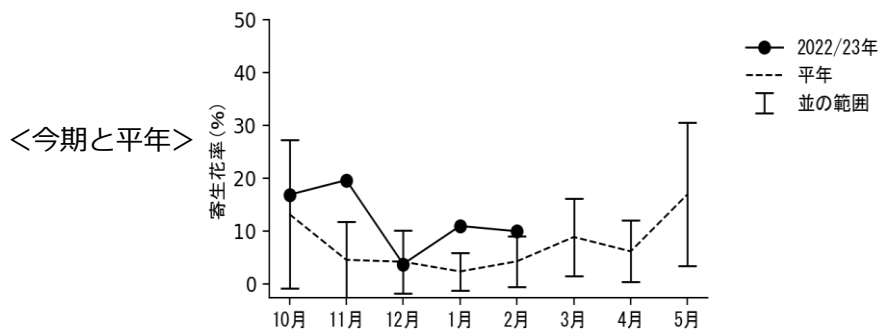
防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス等を媒介する。
- ・施設の出入口や天窗は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ ヒラズハナアザミウマ			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


寄生花率の推移



・発生施設率80.0% (平年：28.0%)

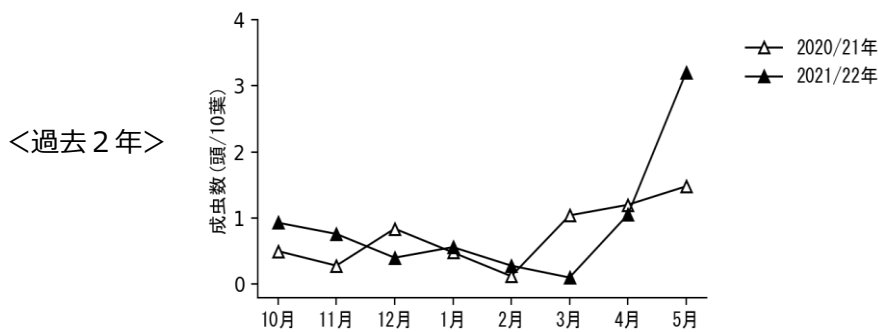
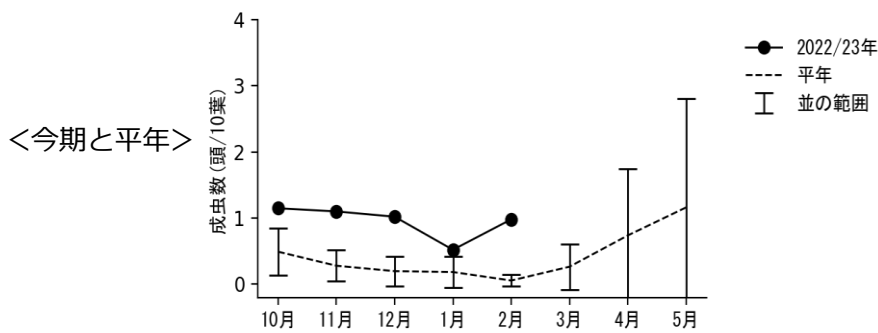
防除のポイント

- ・本種は主に花に寄生し、多発すると産卵により果実へタ部や果梗部が黒変する。
- ・施設の出入口や天窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・発生源となる施設内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	④ タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率60.0% (平年：12.0%)、一部施設で多発

防除のポイント

- ・施設の出入口や天窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

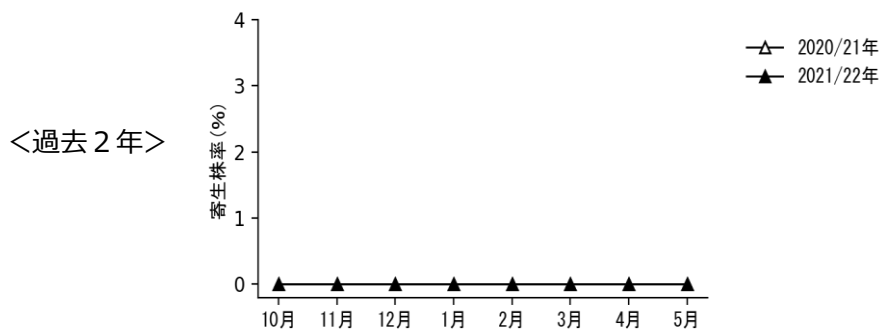
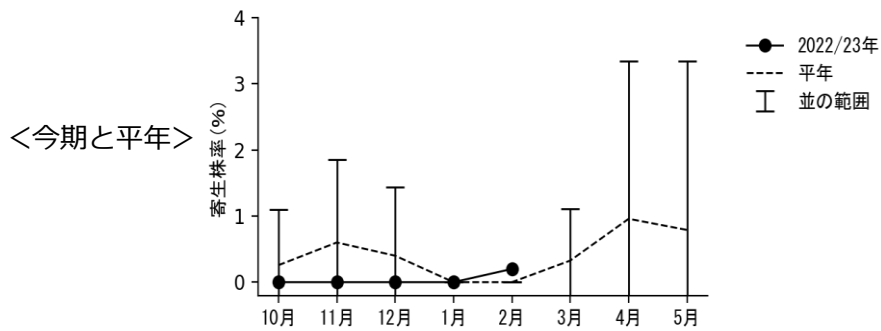


幼虫

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

寄生株率の推移



・発生施設率10.0% (平年 : 0%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。